

平成26年 1月29日

枚方市上下水道事業管理者
西尾 和三 様

枚方市上下水道事業経営委員会
委員長 真山 達志

枚方市上下水道事業の経営に関する意見について

水は、私たちの生活に欠かすことのできない大切な資源であり、水の循環は、河川や地下水の水量の確保、水質の浄化、水辺環境や生態系の保全に大きな役割を果たしている。しかし、その一方で、時には大雨や洪水等の災害をもたらすこともある。

枚方市上下水道局では、この水の循環を総合的に捉えた組織体制を整え、上下水道事業が抱える諸課題に対応するため、各種事業に取り組まれている。

本委員会は、平成25年度中に委員会を開催し、平成19年度策定の水道事業中期経営計画（以下、「経営計画」という。）の進行管理を目的とした水道事業経営評価の妥当性などについて、調査・審議を行ってきた。

今回その結果について、枚方市上下水道事業経営委員会規程第2条の規定に基づき、下記のとおり意見を提出するものである。

記

- 1 経営計画に掲げる主要施策の平成24年度の取り組みにかかる自己評価結果に対し、各委員の専門的見地等の幅広い観点から、それぞれの施策の評価の妥当性について検証作業を実施した。

具体的には、水道ビジョンに掲げる23件の基本施策に関連付けた、経営計画に掲げる40件の主要施策のうち、既に完了した4件を除く36件に対し、当初目標を上回る成果が得られた施策（S評価）が5件、当初目標通りの成果が得られた施策（A評価）が31件となっており、施策の進捗状況等を審議した結果、評価結果は概ね妥当であると判断した。

なお、水道事業ガイドライン業務指標（PI）を用いた平成24年度実績における類似団体との比較結果から見ても、経営状況は全体として良い状況であると判断できる。

また、平成19年度策定の経営計画は、平成24年度末をもってその計画期間が終了となっており、平成19年度以降の自己評価結果に基づく『枚方市水道ビジョン基本方向「6つのS」』の達成状況をみると、各年度において、全てが当初目標通りの成果（A評価）となっている。このことから、水道ビジョンに掲げた基本理念『市民の暮らしや企業活動を支える ～信頼される水道 満足される水道 持続可能な水道～』の達成に向け、取り組まれてきたものと評価できる。

しかしながら、水道ビジョンに掲げた基本理念は、上下水道ビジョンに継承されていることから、基本理念を達成するための更なる取り組みが必要となる。このため、改めて基本理念を充分認識し、各種施策の充実にに向けた取り組みを図られたい。

また、経営計画に掲げる主要施策のうち、「職員定員管理の適正化」の取り組みとして、退職不補充を基本に、目標を上回る人員削減が行われてきた。

今後は、安全・安心で安定的な給水を維持していくために、職員管理について、人材育成による能力の向上だけでなく、適正数を見極めたうえでの確保といった、質と量の両面からの取り組みが必要であると考えます。

- 2 平成 25 年 4 月策定の上下水道ビジョン等の計画に基づく水道事業、下水道事業の取り組みに対する経営評価のしくみについては、これまで水道事業において実施してきた経営評価システムを継承し、自己評価である「基本施策評価」と、類似団体との比較評価である「経営評価」という 2 種類の「内部評価」と、本委員会による「外部評価」を併せて行うこととしており、その手法は妥当であると判断した。

なお、下水道事業の経営評価については、類似団体の選定など、更に検討を進めることで、より良い評価システムとなるよう努められたい。

最後に、今年度から上下水道ビジョン等の計画に掲げる施策に取り組みされており、来年度から、その取り組みに対する経営評価を行うこととなるが、上下水道事業においては、人口減少などに伴う水需要の減少による厳しい経営状況の中で、施設の老朽化への対応、耐震化の推進、合わせて技術の継承が課題となっている。特に、水道事業においては、中宮浄水場の更新、応急給水拠点の整備など、下水道事業においては、浸水被害の軽減、水洗化の促進など、それぞれ大きな課題を抱えている。

これらの課題に的確に対応していくため、上下水道組織の活性化を図りながら、着実に施策の推進に取り組まれるよう期待する。